

科目名	理学療法評価学演習 I			ナンバリング	ZSE247	授業形態	演習
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	佐藤惇史	担当教員	○佐藤惇史、齋門良紀				

授業の概要	理学療法評価学の講義を基に、関節可動域や筋力の具体的な検査・測定方法について演習を行い、関節可動域と徒手筋力検査の技術を学ぶ。本授業科目は、教員によるデモンストレーションの後に、学生が2人1組ペアとなり体験的演習を行い、評価技術の知識と実践能力を修得することを目標とする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節可動域測定と徒手筋力検査の評価方法を説明できる。 2. 学生同士で関節可動域測定と徒手筋力検査を実施することができる。 3. 測定結果の妥当性について説明できる。 4. 実施した結果を記録できる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	演習では、関節可動域測定と徒手筋力検査の評価技術を学ぶ。骨や筋の名称などの基礎知識を必要とするため、復習をしておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。				
○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> ①関節可動域測定と徒手筋力検査の評価方法を説明できる。 ②検査・測定の原則的方法を理解し実施できる。 ③実施した検査・測定の結果を記録できる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①コミュニケーションを取りながら、分かりやすい言葉で説明しながら検査・測定を実施できる。 ②原則的方法で実施できない場合、測定の変法を提示し実施できる。 ③結果を相手に分かりやすい言葉で伝えることができる。 ④グループメンバーに適切な助言ができる。

成績評価観点 評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	●						50%
小テスト・授業内レポート	●	●			●		40%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			●	●			10%

課題、評価のフィードバック	マスタリングテスト後、口頭にて個別にフィードバック、その他manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	オリエンテーション	講義全体の流れを説明する。検査・測定の意義・目的などを説明する。	
	第2回	関節可動域測定1	上肢の測定方法	
	第3回	関節可動域測定2	上肢、手指の測定方法	
	第4回	関節可動域測定3	下肢の測定方法	
	第5回	関節可動域測定4	下肢の測定方法	
	第6回	関節可動域測定5	体幹の測定方法	
	第7回	まとめ①	関節可動域測定(第2回～第6回)の理解度の確認試験	
	第8回	徒手筋力検査1	上肢の測定方法	
	第9回	徒手筋力検査2	上肢の測定方法	
	第10回	徒手筋力検査3	下肢の測定方法	
	第11回	徒手筋力検査4	下肢の測定方法	
	第12回	徒手筋力検査5	頸部、体幹の測定方法	
	第13回	徒手筋力検査6	頸部、体幹の測定方法	
	第14回	まとめ②	徒手筋力検査(第8回～第13回)の理解度の確認試験	
	第15回	理学療法評価学演習 I まとめ	第1回から第14回までの復習、要点整理を行う。	
	試験	各検査方法等の習熟度を確保するためのマスタリングテストを実施する。加えて筆記試験も実施する。		
授業の進め方	各検査・測定の概要や評価技術や実践方法のポイントを解説後、2人1組ペアで実技練習を行う。			
授業外学習の指示	検査・測定の評価技術の獲得には、繰り返しの練習が必要である。また、体格が異なる相手など、どのような対象者であっても評価が実施できることが求められる。そのためにも、授業外の時間を利用して異なるペアで練習を行うようにすることも勧める。不明な点は各自教科書で確認をするか教員に質問をすること。 (授業外学習時間: 毎週 240 分)			

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法評価学(標準理学療法学 専門分野)(第2版)、監修 奈良 勲、編集 内山 靖、医学書院、2004、5,800円(税別)、ISBN:978-4-260-26676-5 ・新 徒手筋力検査法(原著第9版)、Helen J. Hislop 他、協同医書出版社、2014、8,100円(税込)、ISBN-13: 978-4763900388
参考書	適宜、演習内で紹介する。
参考URLなど	適宜、演習内で紹介する。
その他	体を動かしやすい服装で出席すること(ジャージの上下など)。授業内の積極性の程度、確認試験、期末試験を総合して評価する。